

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-125	高等学校	家 庭	保育基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

## 1. 編修の基本方針

学習指導要領に示された「保育の意義や方法，子供の発達と生活の特徴，子供の福祉や文化について理解し，関連する技術を身に付けるとともに，子供一人一人の発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め，地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成する」ことを目標に編修をしました。主に、次の3点にこだわって編修をしています。

### 1. 子どもにかかわる職業への関心・意識を高める教科書

保育士や幼稚園教諭をはじめとする、子どもにかかわる職業の方へのインタビューを多数掲載し、職業に関する生徒の関心を高められるようにしました。生徒自身が職業人として子どもにかかわる場面を想定した問いかけなども多く取り入れました。また、各章の導入に設けた漫画で、子どもにかかわる職業の魅力を感じてもらえるように工夫しました。また、保育者のインタビューや保育の様子動画をを用いて、生徒が保育の職業をより具体的にイメージすることができるようにしました。

### 2. 主体的・対話的で深い学びを実現できる教科書

教科書全体で主体的・対話的で深い学びを実践できるように工夫しています。節（単元）の導入部に、保育の内容について主体的・対話的に考えられる問いかけを設けました。問いかけは、実際の保育現場での子どもたちの写真などを見ながら、生徒が楽しみながら取り組めるような内容にしました。また、節の終わりのまとめコーナーで、学びの振り返りや、学習を深める活動ができるようにしました。章末には、学んだことを生かして協働しながら課題に取り組むページも設けました。

### 3. 保育に必要な知識・技術が身につく教科書

子どもの心身の発達に応じたかかわり方などを生徒が理解しやすいように、AB判のゆったりとした紙面を生かし、イラストや写真を多く用いて、わかりやすく解説しました。また、全国高等学校家庭科保育技術検定で行われている4つの種目を取り上げ、ポイントや生徒の感想を交えながら、生徒が意欲的に取り組むことができるように工夫しました。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>子どもにかかわる 職業を知ろう！</p> <p>子どもにかかわる さまざまな職業の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにかかわる職業の方へのインタビュー記事を掲載し、仕事の魅力が伝わるよう工夫しました（第2号）。</li> <li>・子どもにかかわる職業における、性別や経歴の多様性を示すために、さまざまな境遇の方のインタビューを掲載しました（第3号）。</li> <li>・インタビュー記事以外にも、社会ではさまざまな人々が子どもの生活を支えていることが理解できるようにしました（第2号）。</li> </ul>	<p>口絵 4-11</p> <p>口絵 4-11</p> <p>口絵 18</p>
<p>1章 子どもの保育</p> <p>1 保育の意義</p> <p>2 保育の環境</p> <p>3 保育の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の育児時間や育児不安などの資料から現代の子育ての課題に気づき、家族の協力や社会の支援の重要性を学べるようにしました（第3号）。</li> <li>・子どもが育つ環境の変化に触れて、発達における環境の重要性を理解し、保育者としてどのような環境をととのえる必要があるか考えられるようにしました（第4号）。</li> </ul>	<p>10 頁</p> <p>8、23 頁など</p>
<p>2章 子どもの発達</p> <p>1 子どもの発達の特性</p> <p>2 乳幼児の発育と発達</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達の様子を母子健康手帳を見ながら理解できるようにしました（第1号）。</li> <li>・子どもの発育・発達には個人差があることを知り、それぞれの子どもに応じたかかわりの重要性を理解できるようにしました。（第2号）。</li> <li>・生命の誕生、胎児の発育・発達、乳児から幼児への発達の様子を見て、生命の神秘性を感じ、子どもを大切にする気持ちを持つことができるようにしました。（第4号）。</li> </ul>	<p>33 頁</p> <p>31、50 頁など</p> <p>46-49 頁</p>
<p>3章 子どもの生活</p> <p>1 子どもの健康と生活</p> <p>2 子どもの食事</p> <p>3 子どもの衣服と寝具</p> <p>4 子どもの健康と安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母乳の分泌のしくみや乳汁の栄養素比較など、科学的な資料を掲載して理解が深まるようにしました（第1号）。</li> <li>・食物アレルギーに配慮した給食・おやつメニューを掲載するなど、子ども一人ひとりの健康・安全を考えられるように工夫しました（第2号）。</li> <li>・家庭内や保育施設での危険の事例について学びながら、子どもの安全を守るためにはどうしたらよいか考えられるようにしました。（第1号）。</li> </ul>	<p>62-63 頁など</p> <p>72-73 頁など</p> <p>90-91、96 頁など</p>

図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
4章 子どもの福祉 1 保育にみる児童観 2 児童福祉の理念と法規・制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国籍の違う子どもに保育者としてどう接すればよいか、具体例を交えて考えられるようにしました（第5号）。</li> <li>・明治時代の日本の人々が子どもとどうかかわっていたか、資料をもとに考えられるようにしました（第5号）。</li> <li>・障がいや家庭の事情などから困難を抱える子どもや親を、保育者としてどう支えるべきか、具体例を交えながら考えられるようにしました。（第3号）。</li> </ul>	97頁  100頁  108頁
5章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義 2 子どもの文化を支える場 3 子どもと遊び 4 子どもの表現活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な玩具と現代の玩具を比べたり、次の世代に伝えていきたい行事・遊びを考えたりする中で、日本の子どもの文化について親しみをもち、これからの文化について考えるきっかけとなるようにしました（第5号）。</li> <li>・現代の子どもが遊ぶ時間・空間・仲間を確保しづらい状況を知り、子どもが遊べる環境をととのえるにはどうしたらよいか考えられるようにしました（第4号）。</li> </ul>	111、119頁   120-121頁
巻末 保育実習に行ってみよう！  保育技術検定に挑戦してみよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習での注意点や、子どもと接する際のコツ、保育技術検定に取り組む際のポイントなどを、写真等を用いて詳しく解説しました。将来、子どもにかかわる職業に就く・就かないにかかわらず、子どもとの適切なかかわり方が身につくように工夫しました（第1～2号）。</li> </ul>	134-139、 140-141頁
新生児の様子を見てみよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等身大の新生児の写真を掲載し、生徒が全身や手足の大きさを自分と比べながら、生命の尊さを実感できるようにしました（第4号）。</li> <li>・助産師の方のインタビューを掲載し、新生児とかかわる職業の重要性を理解できるようにしました（第2号）。</li> </ul>	口絵 14-16  口絵 16

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・誰にでも読みやすい教科書を目指し、大きめの判型でイラストや写真を見やすく配置したほか、ユニバーサルデザインフォントと、ユニバーサルデザインカラーを使用しました。
- ・子どもにかかわる職業に対する関心・意欲を高められるように、漫画やキャラクター、伸び伸びと活動する子どもの写真・イラストを多く用い、親しみやすい教科書を目指しました。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-125	高等学校	家庭	保育基礎	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領に示された科目の目標である「保育の意義や方法、子供の発達と生活の特徴、子供の福祉や文化について理解し、関連する技術を身に付けるとともに、子供一人一人の発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成する」ことを目指して編修しました。具体的には、以下①～③のポイントに留意して紙面を構成しています。

### ①子どもにかかわる職業への関心・意識を高める

学習指導要領で示された「家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成する」ことを重視し、以下の工夫をしました。

#### ①職業インタビューの充実

生徒が子どもにかかわる職業への興味・関心を持つことができるよう、保育士や幼稚園教諭など13の職業の方へのインタビューを掲載し、仕事内容や必要な資格、仕事への想いなどを紹介しました。幼稚園教諭のインタビュー動画などから職業を具体的にイメージできるようにしました。

#### ②職業人の視点を意識した問いかけ

子どもにかかわる場面を想定した問いかけなどを随所に設け、職業人として必要な資質・能力の育成につながるようにしました。

**ある日のおもなスケジュール**

8:00 出勤  
スジメール確認  
職員みんなでストレッチ(健康予防)  
園庭整備など

8:30 園児登園  
外遊び  
お散歩  
あ、いね!

9:30 おやつ  
給食

10:10 散歩  
外遊び  
など

11:35 お昼ご飯(子どもたちといっしょに)  
給食  
着替え

13:00 昼寝(午睡)

14:45 起床、排泄、着替え

15:00 おやつ、室内遊びなど

16:00 帰りの会

16:30 園次降園  
延長保育

18:00 退勤

**保育士**  
中澤文士さん(40歳)  
勤務先:私立保育所  
持っている免許・資格:保育士、幼稚園教諭(二種)など  
経歴:保育士(2年)など

**Fashion check!**  
服装のポイントは?  
保育園の制服として、園支給のウェアを着ています。夏はクラスで同じ色のTシャツを着て、気分をひとつにすることもあります!

**いつも身につけているものは?**  
ハンカチ、ティッシュペーパー、ボールペン、メモ帳、園旗など

中澤先生に聞きました!  
仕事をしていてうれしかったことは?  
毎日子どもたちとふれ合いながら、子どもたちの成長を身近に感じられることに喜びを感じます。保護者の方から「中澤先生に受けてもらえて、子どもに保育が楽しそう」と言ってもらえたときは、とてもうれしかったです。

高校生へのメッセージ  
人が好きでない、この仕事は続けられません。だから、今からいろいろな経験をして、人を好きになっておきましょう。命を預かる責任の重い仕事ですが、子どもたちがたくさんのことを学べることもたくさんあります。喜びとやりがいを感じながら働ける人たちが集まるとを願っています。

園庭の方に聞きました!  
徳田本美先生  
中澤先生ってどんな人?  
中澤先生は、とても明るく、子どもたちに対して元気ハツラツなかわりをしています。子どもたちを笑顔にさせる遊びのタネをたくさん持っており、笑っていて楽しい気持ちになれる先生です。子どもたちに対しては丁寧で、ほかの先生や保護者の方など、全員に対して楽しく接してくれる方なので、子どもにも大人にも人気の先生です。

**TRY**

**好き嫌いをする子どもにどう接する?**

あなたが保育者なら、下のように、幼児がある食べ物を嫌がって食べないとき、どのように接するだろうか。「調理のしかた」や「言葉のかけ方」「食べさせ方」などの視点から、自分が工夫できることをまとめ、ほかの人の考えと比べてみよう。

●●は食べたくないの。  
だって、味が苦しい、  
ポロポロしているんだもん。

▲保育者になった場面を想像しながら  
取り組む TRY (p.68 など)

▲職業インタビューページ(口絵4など)

## ② 主体的・対話的で深い学びを実現する

教科書には全5章を設け、各章を次のように展開しました。

### ①章とびら

各章の導入部に保育にかかわる漫画を設け、学習内容や課題をつかめるようにしました。その章でどのようなSDGsの目標を達成できるかについても考えられるように工夫しました。

### ②節

各章を節で分け、「導入→本文や資料での学習→まとめ」の流れで学べるようにしました。

- ・節の導入では、実際の保育現場の写真などを見ながら、問いかけに答えるコーナーを設け、生徒が保育の課題を発見し、主体的に考えられるようにしました。
- ・ミニワークや実習を行うコーナー「TRY」を多く設けました。TRYは主体的に考えるテーマ、対話で考えを広げるテーマの2種類に分類しました。生徒の取り組みやすさを重視しています。
- ・節の最後にまとめとして、学習した内容をふり返ったり、身近なテーマから学習を深めたりするコーナーを設けました。

### ③章末

各章末に、学んだことを生かして課題に取り組むページを設けました。実際の保育現場で起こりうるテーマに対し、生徒同士で協働しながら課題解決について考えられるように工夫しました。また、章末の二次元コードの遷移先に収録したふり返りテストでは、生徒が各章の学習内容をふり返って理解を深められるようにしました。



▲章とびらの漫画 (p.5 など)



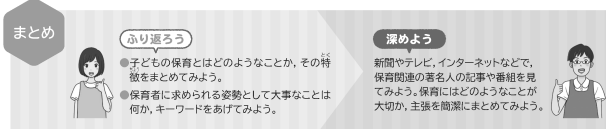
▲TRY アイコン  
(主体的な学び)



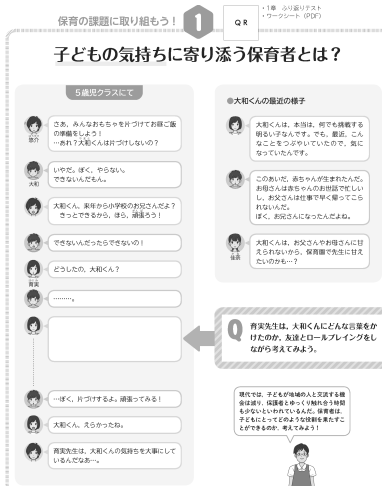
▲TRY アイコン  
(対話的な学び)



▲節の導入の問いかけ (p.7 など)



▲節のまとめ (p.7 など)



▲各章末の課題に取り組むページ (p.26 など)